



iwork-pro.jp

コミュニケーション広報ツール

2025

10

アイ・ワーク News

iwork News Vol.30

クリックして
Webサイトへ
アクセス

新しいメンバーが
ひとり
増えました!



iworkの“24期”

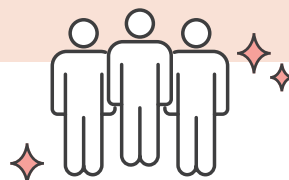
(2024/9~2025/8)

24期の決算を8月に終え、9月から25期がスタートしました。24期の社内の様子をお知らせします。

“しんがりを努める
リーダーしっぽ”
代表取締役 福原
T.FUKUHARA



体制



24期は、web制作の技術サポートの体制を整えてきました。サーバー管理の技術者を専属で設け、社内的にはwebコーダーを一人採用しました。25期スタートの9月からはwebデザイナーを一人増員しましたので、25期は11名の人的体制となりました。在宅勤務が可能であることと、デザインとweb制作のスキルを身につけていることを条件に、今回もハローワークで募集して、大変良い人材に巡り合っています。

売上と仕事内容

売上は、最盛期(コロナ前)とほぼ同程度のところまで到達することができました。

従来からの得意先のところでは、新規の仕事がくれたことや着手する制作媒体も多様になり売上に反映しています。IT機器関連の情報編集とデザイン制作もコンスタントに発注いただくようになりました。

特徴的な点では、閑散期の6~8月に福祉施設や研究所など非営利組織のwebサイト制作を複数抱え猛暑と闘いながらの制作を経験しました。この秋には、其々OPENの予定となっています。

また、医療法人、行政、といったところも23期に続き新しい仕事の依頼をいただきました。昨年の「社史」や「記録集」に続き今期は、「自分史」の仕事を手伝いました。直近では、「絵本」の制作も依頼を頂き年内発行でデザインワークを始めています。「本」づくりは、編集者の立場が求められます。内容にふさわしい装いをデザイナーと決め、用紙を選択し、校正者の力を借り、印刷と製本の業者のアドバイスも受けながら完成していきます。制作期間は、1年ほど必要としましたが大変楽しい仕事の一つになりました。



課題は

iworkは、「コミュニケーションツールをつくるモノづくりの会社」です。

しかし、そのモノが品薄になると経営は回っていきません。情報編集、デザイン、webとモノづくりの技術は整ってきましたが、肝心のモノは、従来の得意先の事業回復から負うところが大半でした。モノを開拓する企画と営業と発信力に課題を残しています。

人が生きる会社づくり

24期は、23期に続き良い流れがつくれた1年だったと言えます。売上の伸長もありますが、何より優れた人材にめぐり会い、職員の創造力や技術によって良い流れをつくり出していると思います。「...利益の根源をつきつめていくと、...企業を構成する人間の創造性そのものが、利益の源となっているということに行き着く」(上原「1997」『成長の原理』)。経営者コミュニティで交流のあった経営者からすすめられた「本」に書かれていた一説です。以来、こだわりを持って経営の舵取りをしてきました。「人が生きる経営」に、今期も挑戦していきます。



プロレス名言
シリーズ

人生は旅路

人生は旅路だ。旅路とは栄光を手に入れるためのもの。自分にふさわしい場所を見つけることでもある。このリーグ戦は俺に火をつけ、刺激を与えた。この経験は何事にも代え難い。俺の旅路はまだまだ終わらない。

これは昨年、期間限定で日本の団体に参戦していた外国人レスラーの言葉です。

日本のプロレスは巡業が主流です。約一か月かけて全国各地の体育館やホールを回り、二つのシリーズを戦います。まさに旅をしながら仕事をするようなものです。なかなかハードで合わない選手もいるそうです。彼は憧れのレジェンドたちと行動を共にし、日本各地のファンと交流する巡業の醍醐味を堪能したようです。

さて、旅の醍醐味とはなんでしょう。私は高知県が好きで度々訪れています。中でも四万十・黒潮エリアは今年で四度目となりました。

山も海も近く自然豊か。山・海・川・畑の幸は何を食べてもおいしい。

何より、私が思う四万十・黒潮エリアの魅力は気取らない暮らしと親しみやすい人たち。

例えば、四万十名物の一つ「田舎ずし」。みょうが、りゅうきゅう、しいたけ、こんにゃくなど山の幸を使ったお寿司で、宴会や行楽の際に作られるそう。派手さはなく、食材の持ち味を生かして大切にいただくという暮らしの知恵が詰まっています。道の駅では午前中早々に売り切れてし

まうのも納得。素朴で温かみがあって心に沁み入るおいしさです。

また、圧倒的に他所と違うのは現地の人との触れ合いの多さ。どこでも気さくに話してくれる現地の人たち。おらかな笑顔と土佐弁にも親しみを覚えます。

ところで、前述の「りゅうきゅう」をご存知でしょうか。「りゅうきゅう」とは「蓮芋の茎」のこと。私の地元・京都府では「里芋の茎」を「ずいき」と呼び、「ずいきの炊いたん」として煮物にするのが一般的。一方、高知県では田舎ずしや酢の物として生のまま食べることが多いようで、お刺身のツマとしても使われます。地域による違いを知るのも旅のおもしろいところですね。

日常を離れ、本当に大切なこと、自分が必要としていることは何かに気付かれます。

旅がもたらすものは他にもあります。

以前、こんなことがありました。徳島県を流れる吉野川流域の暮らしや歴史についての書籍の装丁デザインを担当した時のこと。私が思う徳島のイメージといえば川と、海と、そして雄大な山々。そこで、二重、三重に連なる稜線をデザインして提案したところ、「イメージ通りです」とのお言葉をいただきました。旅の経験が生きた瞬間です。

人生を豊かにする旅。それとも、旅そのものが人生か。さて次の旅はどこへ――。

▼ 四万十川にかかる沈下橋。沈下橋とは増水時に川に沈んでしまうように設計された欄干のない橋のことです。



*Wishing you
a great journey!*



プロレスファン4年生
デザイナー 田部
M.TABE



四万十・黒潮エリア

友人からのお土産がきっかけでご当地マグネットを集めています。今年仲間入りしたのは、左上から岐阜県多治見市の公式マスコット「うながっぱ(やなせたかしデザイン)」、高知県の「カツオ人間」、愛媛県宇和島市のマグネット。



アイ・ワーク
News

iwork News
Vol. 30
2025.10

有限会社 アイ・ワーク

〒603-8142 京都市北区小山上総町10-1 MYCROFTビル2F
TEL 075-494-2686 E-MAIL news@iwork-pro.jp

i work